



町長

濱館 豊光

三期目の町政 次なる挑戦へ

新年あけましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新春を健やかにお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。旧年中は、町政運営に格別のご理解と温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年四月の中泊町長選挙におきまして、町民の皆様からのご信任をいただき、引き続き三期目の町政を担わせていただくこととなりました。改めてその重責を胸に刻み、

身の引き締まる思いで、町民の皆様の期待に応えるべく、誠心誠意職務に邁進してまいります。

町長就任以来、「未来を見据えた町づくり」を常に意識し、諸施策に取り組んでまいりました。これまでの成果を着実に発展させるとともに、社会情勢の変化や新たな課題にも果敢に挑戦し、誰もが安心して暮らし続けられる中泊町の実現に向け、全力を尽くしてまいります。

また、昨年六月には青森県町村会長を拝命いたしました。青森県三十町村の代表として、国への要望活動や各種会議への出席など、町を留守にする機会もございますが、三上副町長と緊密に連携を図りながら、全国で得られる知見や経験を町政運営に活かしていく所存です。

○文化のかほる中泊町

本年、宮越家の襖絵「春景花鳥図」が中泊町を飛び出し、かつて奈良の談山神社を共に飾っていた「秋冬花鳥図」、「琴棋書画仙人図」と、約百五十年の時を超えた奇跡の再会を果たします。東京都美術館および大阪中之島美術館で開催される展覧会において、宮越家の文化財が広く世に発信されることとなります。

昨年の宮越家の公開では、キヤノン、京都文化協会が制作した「秋冬花鳥図」の高精細複製品が宮越家で公開され、観覧チケットが予約開始

初日に完売するなど、町内外から大きな反響をいただきました。今回の展覧会を通じ、文化を大切に守り継いできた宮越家のある町・中泊町を、町民の皆様があらためて誇りに思い、郷土への愛着を深める機会となることを大いに期待しております。この他、宮越家庭園の「静川園」についても、令和7年12月19日に国の文化審議会が新たな名勝に指定するよう文部科学大臣に答申しました。名勝の指定が決定すれば、町では初めての国名勝指定となり、本州最北端の名勝庭園が誕生します。今後も、町が国内のみならず世界から注目されるよう、魅力発信に努めてまいります。

○合併二十周年を未来への糧に

中泊町は、昨年、合併二十周年という大きな節目を迎えることができました。「大地の恵」を生かした農業を基幹とする中里町と、「海の幸」に支えられた小泊村が合併し、以来、地域の特性を生かしながら「希望のまち」を目指して歩みを進めてまいりました。

合併二十周年記念で結成された劇団なかどまり「お結び」による公演や、記念式典を通じ、これまでの歩みを振り返るとともに、先人の皆様が築き上げてこられた歴史と努力に對し、改めて深い感謝の念を抱きます。

新たに二十一年目を迎える中泊町。十年後、二十年後にこの町で生きていく子どもたちのため、持続可能で力強い地域を築き、次世代へ確実に引き継ぐ責務を担っていると感じております。二十年後には人口が四千人台にまで減少すると予測される中、人口減少に屈しないためにも、他市町村と手を携えながら広域で効率的な行政サービスを提供するなど、これまでの常識に捉われない考え方で町民の皆様にとって最適な方法を常に模索してまいります。また省力化と高い生産性を実現する一次産業の推進に加え、DX（デジタルトランスフォーメーション）・GX（グリーン・トランスフォーメーション）を取り入れた新たな産業の創出、さらには「中泊町教育イノベーションプロジェクト」の中核事業である「メタバース英語教育」による英語力向上と交流の促進をはじめ、先進的なプログラミング学習の実施、将来的には金融教育も学校に取り入れながら、持続的に人材を育み送り出せる町となることを、ここにお約束申し上げます。

結びに、町民の皆様のご健勝とご多幸、そして本年が希望に満ちた実り多き一年となりますことを心より祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

新年明けましておめでとうございます。

町民の皆様におかれましては、健康やかに新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げますとともに、平素から町議会に、温かいご支援とご理解を賜り、議員一同深くお礼申し上げます。

また、私ごとではございますが、昨年6月の議会定例会において、議

町の基幹産業の さらなる発展を 目指した取り組み

町議会議長

長利 司



員各位のご推挙により議長の要職に就任いたしました。

新春を迎え中泊町のさらなる発展のため、皆様とともに知恵を出し合いながら、鋭意努力してまいりたいと決意を新たにしております。

さて、昨年の11月には、町の基幹産業である農業のさらなる発展を目指し、普通河川の整備促進、農業農村整備事業関連予算の必要額確保、そして国営かんがい排水事業「津軽北部二期地区」及び国営総合農地防災事業「十三湖地区」の事業促進、スマート農業の事業枠拡大について、関係機関などに要請してまいりました。また、「知事を囲む行政懇談会」においては、西北津軽郡町議会議長会を代表し、津軽半島の道路の強化について要望いたしました。

町内の基幹産業に目を向けますと、中里地域は二年連続で米の価格が高騰し、米作農家は収穫も良好で利益が見込まれています。しかしながら、小泊地域では、ウスメバルやヤリイカの不漁に加え、好調とみられたスルメイカ漁も漁獲可能量の枠を超過したため、休漁の措置が取られました。本年は豊漁となることを心から期待しております。

町議会におきましても、昨年1月より中泊町議会基本条例が本格稼働し、8月には農業者の皆様、商工会の皆様のご協力を賜りながら、「米

の生産と流通」について貴重なご意見を頂戴する意見交換会を開催させていただきました。

改めて、町民の皆様への負託に応えられますよう、議員一同、その職責を全うしていく所存でございます。

私ども議会議員は、町民の代表として、皆様の声を町政に反映し、町民福祉の向上と町政発展のために全力で尽くす所存ですので、なお一層のご支援、ご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

昨年は各地で自然災害が多発するなど、当町でも令和7年8月29日からの大雨により初めて線状降水帯が発生いたしました。年々、異常気象による災害が危惧されてきています。本年が天候に恵まれ平穏な年となるとともに、町民の皆様お一人お一人が安全で安心な暮らしができることを切に願い、より身近な議会、関心を高める議会活動、さらなる町政の発展を目指し、議員一同努力してまいります。

結びにあたり、中泊町にとりまして新しい年が笑顔あふれる素晴らしい年になりますよう心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のご祝詞を申し上げます

中泊町副町長 三上晃瑠

中泊町代表監査委員 外崎良造

中泊町教育委員会教育長 鈴木信也

中泊町農業委員会会長 松坂龍美

中泊町選挙管理委員会委員長 山本孝男

中泊町消防団団長 成澤清志